

2016/2017 シーズン  
SAJ 公認アルペンユース競技会開催要領

## 1 概要

1. 大会名称を「ユース競技会」とする。
2. SAJ 公認アルペンユース競技会には、小学校 5 年生から高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。また、年齢と学年により、K1 と K2 に区別される。
3. K1 カテゴリーは小学校 5・6 年生の競技者、K2 カテゴリーは中学生と高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。
4. 競技ルールは、FIS 国際アルペン競技ルールと本要領に基づいて行われる。
5. 競技ルールと競技用具ルールは、K2 カテゴリーは U16、K1 カテゴリーは U14 を適用する。ただし、本要領に定めることを優先する。
6. 競技会公認料は SAJ 規約規程集、各種公認・登録等料金一覧表の通りとする。

## 2 出場資格について

1. SAJ 競技者登録が完了され、大会要項に記載されている出場資格を満たしている競技者。

## 3 種目について

1. スーパー大回転 (SG)、大回転 (GS)、回転 (SL)、コンビ (KB) SL/GS とする。  
コンビは K1 の SL 種目の 1 つとする。
2. SG の方向転換数を 8~12% とする。
3. GS について
  - 1) K2 は 2 本レースとする。K1 は 2 本レースが望ましい。
  - 2) 方向転換数を 13~18% とする。  
(ターニングポール間 MAX 27m、ディレイトゲートコンビネーションの場合はディレイトゲートから次のターニングポール間 MAX27m)
4. SL について (K1・K2 共通ルールとする)
  - 1) 方向転換数を 32~38%+/-3 とする。  
(ターニングポール間 K1・K2:7m~11m、ディレイトゲートコンビネーションのターニングポール間 K1・K2:12m~15m)
  - 2) 最少 3 箇所、最大 6 箇所のヘアピンと、最少 1 箇所、最大 3 箇所のヴァーティカルコンビネーション (最少 3~最大 4 つのゲートからなる) を設置しなければならない。最少 1 箇所、最大 3 箇所のディレイトゲートコンビネーションを設置しなければならない。

## 4 使用コースについて

1. SAJ 公認コースとする。
2. 各種目の標高差は下記の通りとする。
  - 1) SG : K1 は 250m-400m、K2 は 250m-450m
  - 2) GS : K1 は 140m-300m、K2 は 160m-350m
  - 3) SL : K1/K2 共通 100-160m
  - 4) KB は 120m-200m
3. SG は GS 公認コースでも開催できる (ただし、ルールや安全性を満たしていること)。
4. GS は SL 公認コースでも開催できる (ただし、ルールや安全性を満たしていること)。
5. KB は、GS 公認コースを原則とするが、SL 公認コースでもできる (ただし、ルールや安全性を満たしていること)。

## 5 エントリーについて

1. ブロック内の競技会に出場することを原則とする。ただし、ブロック内の開催競技会が少ない場合、他ブロックの競技会にも参加できる。
2. 他ブロックの大会に出場する場合は、ブロックで出場希望者を集約し、都道府県単位でエントリーすること。また、ブロック内の大会においても、エントリーは各都道府県単位とする。このことは、大会開催要項に明記されなければならない。

## 6 スタート数の制限について

1. 中学校3年生・高校1年生早生まれは制限なしとする。
2. 技術系(GS/SL)合計、小学校5・6年生は8レース以内、中学校1・2年生は10レース以内、とする。スタート数が順守されているかの確認は各都道府県で行う。
3. K1、K2共にスピード系(SG)は、制限なしとする。
4. 「SAJポイントレースにおいて公式成績表が発行され、1本目のDNS以外で名前が掲載されている場合」スタートしたものとする。DNQ、DNF、2本目のDNSもスタートとみなされる。レース/ペナルティーポイントが選手に付与される形でレースが成立しない場合は、スタートを切っても、スタート数にカウントされない。レースが天候等により、途中キャンセルされた場合は、スタート数にカウントされない。
5. 項目6-2.に違反した場合は、当該選手の違反したレースでの取得ポイントを無効とする。但し、違反を知りながら参加する等の悪質な違反者に対しては次年度1月31日までSAJ公認大会のエントリーを禁止するとともに、同期間、FISライセンスを発行しない。
6. 国体、全国高校、高校選抜、全国中学、全日本ジュニアスキー選手権(中学生)SGならびに全日本選抜ジュニアスキー選手権(中学生)SG(以下雫石SGと表記)、JOCジュニアオリンピックカップ、予選会(全国高校、全国中学、国体)のスタートはこの制限に含めない。

## 7 スタート順について

1. 16-17各ブロックのユース競技会については、フリードローを推奨するが、方法は各ブロックの実態により決定する。但し17-18より次の方法を義務付けとする。  
 K1: フリードローとする。  
 K2: SAJポイントを採用し、上位15名タイまでをドロウ、以降はポイント順とし、ノーポイントはドロウとする。  
 但し全国中学、雫石SG、JOCジュニアオリンピックカップは含まない。

## 8 SAJポイントについて

1. 競技者には、SAJポイントをつける。FISルールに基づいてペナルティーポイントを計算し、計算ペナルティーを採用する。一方、規定のミニマムペナルティー値(下表)を下回った場合は、ミニマムペナルティー値をペナルティーポイントとして採用する。マキシマムペナルティーは16-17より廃止する。

カテゴリー	ミニマムペナルティー	マキシマムペナルティー
ユースA級 全国中学 雫石SG ジュニアオリンピック	技術系 男女共通 40点 スピード系 男子 60点 女子 100点	※廃止 計算ペナルティー
ユースK2 B級		※廃止 計算ペナルティー
ユースK1	技術系 男女共通 60点 スピード系 男子 90点 女子 150点	※廃止 計算ペナルティー

2. 16歳以上のB級大会(B級公認各都道府県選手権大会も含む)と併催する場合、K1、K2は、ユースルールに従ってレースを実施する。K1、K2、16歳以上のブロックでスタートさせることにより、SAJポイントが認められる。

## 9 JOC ジュニアオリンピックカップについて

1. 種目は、K1 は SG と SL とし、K2 は GS と SL とする。
2. 出場資格は次の通りとし、2 種目出場とする。
  - K2 1) 各都道府県に割り当てられたエントリー数内で、各都道府県で選抜された競技者
  - 2) 当該シーズンの全国中学校スキー大会各種目 30 位以内の競技者
  - 3) 当該シーズンの全国高校スキー大会各種目 50 位以内で、高校 1 年生早生まれの競技者
  - 4) 当該シーズンの雫石 SG で 10 位以内の競技者
  - 5) 当該シーズンのユース管理選手に選ばれた競技者
  - K1 1) 各都道府県に割り当てられたエントリー数内で、各都道府県で選抜された競技者
  - 2) 16-17 本大会において 10 位以内に入賞した小学校 5 年生に関しては次年度の本大会において特枠シードを与える。特枠シードを獲得した選手は出場権を得ると共に、該当種目の第 1 グループに加えて抽選を行う。
3. K2 のスタート順は、SAJ ポイントを採用する。
  - 1) 第 1 グループは 15 位タイまでで抽選を行う。
  - 2) 16 位以降はポイント順とする。
4. K1 のスタート順は、いくつかのグループに振り分けて、グループ内で抽選を行う。スタートランキングは各都道府県が決定する。
5. ここに定めること以外は、大会要項に従う。
6. JOC ジュニアオリンピックカップの開催地区と開催シーズンのローテーションは次の通りとする。
  - 1) <東北>2017 年と 2018 年
  - 2) <甲信越>2019 年と 2020 年
  - 3) <北海道>2021 年と 2022 年
  - 4) <東海北陸/南北関東/西日本>2023 年と 2024 年
  - 5) <東北>2025 年と 2026 年
7. 開催にあたっての条件は以下の通りとする。
  - 1) 3 月下旬（春休み期間中）で開催し、開催種目を安全に運営できること。
  - 2) 多様なコース設定が可能であり、コース状況が維持できること。
  - 3) 近隣に宿泊施設が十分にあること。交通の利便性が考慮されていること。

## 10 競技用品について

1. 選手が使用する用具は、2016 年 6 月 1 日 SAJ ホームページ掲載「2016-17 シーズンスキー用具に係る国内運用ルールについて」を参照のこと。
2. ヘルメットに関しては、16-17SAJ 公認国内大会においては、K2 は FIS ルールに従い、K1 は推奨とする。但し 17-18 シーズンより K1 においても義務付けとする。

## 11 大会主催者の責務について

1. この要領に定めること以外は、FIS ルールに則り、安全に運営しなければならない。
2. 選手の安全を確保するために、全種目で軽量ポール（25-28.9mm）を使用しなければならない。
3. 大会要項競技規則項目に ICR 等とともに、「SAJ 公認アルペンユース競技会開催要領に基づく」を記載すること。またスタート数の制限に関する記述を入れること。  
※スタート数の制限に関する記述の例  
「技術系（GS/SL）合計、小学校 5・6 年生は 8 レース以内、中学校 1・2 年生は 10 レース以内、とする。中学校 3 年生・高校 1 年生早生まれは制限なしとする。」と定められているので、各カテゴリーにおいてスタート数がオーバーすることのないようにすること
4. レース中にけが人が発生した場合は、指定のフォームを使用し、報告しなければならない。なお、報告書の作成は TD の業務である。

## 12 出場資格についての特記事項

1. SAJ 公認アルペン B 級競技会には、K1 および K2 の中学 1・2 年生の競技者は出場できない。
2. 中学 3 年生以上の競技者は、SAJ 公認アルペン B 級競技会ならびに国体少年男子の部に出場できる。その場合、16 歳以上の競技用品ルールに従わなければならない。
3. 高校 1 年生早生まれの競技者は、雫石 SG と JOC ジュニアオリンピックカップに出場できる。

## 13 2016-17 トップリーノ派遣選手選考基準

1. 選考対象 16-17 シーズン U 16 該当年齢（中 2 遅生まれ、中 3、高 1 早生まれ）
2. 選考基準
  - 1) 15-16 シーズン（前年度）Jr オリンピック SL/GS 共通最上位者 男女各 1 名
  - 2) 16-17 シーズン全国中学 SL/GS 共通最上位者 男女各 1 名
  - 3) 16-17 シーズンインターハイ SL/GS 共通 10 位以内の 1 年生早生まれの選手で最上位者 男女各 1 名
  - 4) 選考基準 1)、2)、3) について
    - a) 16-17 シーズン U 16 該当年齢選手の中で、2 種目共通で最高順位を記録した者とする。
    - b) 優勝者が 2 人であった場合は、2 種目目の上位選手とする。2 種目目も順位を分けた場合は、2 種目目のレースポイントの小さい選手とする。
    - c) 2 人の選手が優勝以外で該当選手の中の最高順位を分けた場合は、その種目のレースポイントの小さい選手とする。
    - d) 選考基準 2)、3) で選抜される選手が、選考基準 1 で選抜されているときは、その選手をそれぞれ選考基準 2)、3) の選考対象外として扱う。
    - e) 選考基準 3) においては、11 位以下からの繰り上げは行わない。
  - 5) 選考基準 3) に該当選手がいない場合は、選考基準 2) の次席選手を選考する。
  - 6) 選考された選手が、遠征派遣を辞退した場合は、それぞれの基準の次席選手を選考する。
3. 上記の方法で男女各 3 名を選考し、エントリーは SAJ ポイント順（選考レースがすべて終了した時点での有効リスト）で、種目毎に行う。
4. 上記選考基準は、変更のない限り、継続する。

## 14 2017-18 ユース管理指定選手選考基準

1. 対象学年：2017-18 シーズン 中学 2 年生、中学 3 年生、高校 1 年生早生まれ
  2. 選考基準
    - 1) SAJ ポイント：年代別各種目上位 3 名（※中学 2 年生の早生まれは、年代（14 歳）に含む。）
    - 2) 全国中学：各種目 6 位以内
    - 3) JOC ジュニアオリンピックカップ：各種目 6 位以内
    - 4) 雫石 SG：6 位以内
    - 5) ユース小委員会推薦
- \* 推薦基準：
- a) 上記主要大会で、10 位以内 2 回以上など、総合的に選考理由を判断できる選手。
  - b) 16-17 シーズン管理選手で、選考当該シーズンにおいて怪我等により成績を残すことができなかったが、継続的な強化が有効とユース小委員会が判断した選手。